

ほほえみ

0199

9月11日アメリカで史上最悪の多発テロ事件が発生しました。多くの死傷者がでたニューヨークでは血液が足りず献血を呼びかけ、善意の人たちの列が出来たということです。

血液不足のニュースは人ごとではありません。

血液腫瘍科にかかっていると輸血を受けることも多くあります。その都度血液を提供してくれた人に感謝の気持ちでいっぱいになります。

そんな献血をしてくれる人も季節によってマチマチのようです。そこで厚生労働省は来年度から同じ人に繰り返し献血をして貰えるように献血時の検査項目を増やすことにしました。肝機能やコレステロール値など検査項目を大幅に増やしていれば人間ドックの感覚で献血をしてもらい健康管理をしてもらおうというものです。また献血ルームまでの交通費の補助も検討されています。

入院をしていると何時輸血が必要となるかわかりません。新鮮血や血液製剤の安定供給が確保されればこんなに力強いことはありません。

<第75回 ほほえみの会>

初めての方や看護婦さん、また脳腫瘍の方2人を含めて7人が参加しました。

▽5歳の女の子、脳腫瘍で放射線治療を7ヶ月やってきたが思うような効果が得られず今後化学療法をやるか家に帰るかの選択を迫られている。本当にどうして良いかわからない日が続き、泣かないでいるのが精一杯の日々。でも一番頑張っているのは娘だと思い、最近ようやく笑顔を出せるようになった。

先生の「希望を捨ててはいけない」という言葉がうれしかった。

親としては少しでも可能性があるのなら希望を捨てずに治療を続けたい。

▽ 18歳の男の子、脳腫瘍で治療を続けている。7月に伊豆の自宅で意識朦朧となりへりで緊急入院。肺炎を併発し治ったものの今現在は意識が戻らない状態。

病院にいていろんなお母さん方と話をしていると気分が休まる。

脊髄、そして脳への直接の抗ガン剤投与は効果が大きかった。

今治療出来ないのが心配だが、子供は母親の笑顔に安心するだろう。

笑顔を振りまき

本人が楽しいことを考えて免疫力が上がるようにしたい。

▽看護婦さんについても話ができました。

親は毎日、熱の0, 1度、1回の咳に一喜一憂する。そんなとき看護婦さんの笑顔に救われる。毎日の様子を教えてくれるのがありがたい。看護婦さんが暗い顔をしていると自分の子の状態が悪いのではないかと感じてしまう。笑顔で挨拶をしてくれると落ち込んでいても思わず笑顔がでる。

また今回、S2の影山看護婦が付き添いで参加してくれました。

不安でいっぱい母親は親身になってくれることに幸せを感じすごうれしいと話していました。

影山さんありがとうございました。

次回は10月14日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mail klikeda@nifty.com

ホームページ <http://village.infoweb.ne.jp/~hohoemi/>

